

刊行に寄せて

東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構（以下 CoREF）は、大小さまざまな市町教育委員会及び学校等と「新しい学びプロジェクト」、埼玉県教育委員会と「未来を拓く『学び』推進事業」という協調学習を引き起こす授業づくりのための研究連携事業を行っている。平成 22 年度から始まったこれらの研究連携はもう 4 年目に突入する。また、昨平成 24 年度からは、連携の成果を活かし、埼玉県や鳥取県、千葉県柏市といった自治体の研修事業において、協調学習を核とした研修プログラムの開発、実施を行ってきた。

いずれの事業でも私たちは現場の先生方と連携して、「人はいかに学ぶものか」について今研究分野でわかってきていることを基盤に、教室で行われている授業の質を上げ、子どもたちが自分たちで考え、理解し、次に学びたいことを見つけ出していける新しい学びのゴールを追求してきた。また、一連の事業を通じて私たちは、私たち研究者、教員、そして様々分野の社会人専門家のコミュニティが緩やかに重なりながら、こうした新しい学びのゴールに向けて、それぞれの専門性を活かし、教室の事実学びながら継続的に授業の質を上げるためのネットワークを構築することを目指している。

本報告書の作成並びにその基本となった事業においては、「新しい学びプロジェクト研究協議会」参加の 12 道県 17 団体、埼玉県教育委員会、鳥取県教育委員会、千葉県柏市教育委員会、日本産学フォーラム、日本技術士会統括本部登録団体「わくわく理科教育の会」、日本技術士会 理科教育支援部門のみなさまに多大なご支援、ご協力をいただいた。この場を借りて感謝を表したい。

平成 25 年 7 月から CoREF は東京大学 大学総合教育研究センターの一員として新たなスタートを切った。大学総合教育研究センターの一員としての私たちの主なミッションは、今大学で求められる実践知と高校までの学習との間にあるコンテンツ・ギャップを埋めるための仕組みづくりである。これまでの研究連携で培ってきた知見やネットワークは、この新たなミッションを遂行する上でも引き続き重要なリソースである。

本報告書は以下の 6 章から構成される。副題の「私たちの現在地とこれから」にあるように、これまでの研究連携で目指してきたものは何か、それはどの程度達成されてきたといえそうか、この先私たちはどこに進んでいきたいかを示した報告書となっている。

まず 6 章立ての本文の前に、「はじめに」として、CoREF の研究連携の概要を示し、これまでの報告書に書かせていただいていたことをリファレンス案内として整理した。

第 1 章では、CoREF と自治体及び産業界との研究連携・協力事業の基本的な枠組みと今年度の各事業における取組の概要を紹介している。自治体、学校等との研究連携として、第 2 節に「新しい学びプロジェクト」、第 3 節に「未来を拓く『学び』推進事業」、自治体の研修事業のプログラム開発、実施への協力事業として、第 4 節「21 世紀型スキル育成研修会」、第 5 節「埼玉県 高等学校初任者研修」、第 6 節「柏市 小中学校 5 年経験者研修」、

第7節「鳥取県 学習理論研修」である。社会人・産業界の専門知を授業改善に役立てる活動との連携の今年度の成果については、第8節「社会人・産業界の教育支援活動との連携」で報告した。また、第9節「新型高大連携事業」では、今年度開始した高大のコンテンツ・ギャップ解消を目指す東京大学の新型高大連携事業について報告した。

第2章『新しい学びプロジェクト』の現在地とこれから」では、連携事業の来し方行く末について、4年間の開発教材数など量的なデータの推移と様々な立場の関係者による質的な振り返りを収録し、総括している。第1節で量的なデータ推移を示し、第2節で平成24年度年次報告会の、第3節で平成25年度年次報告会の全体会での報告を文字化して収録した。

同じく、第3章『未来を拓く『学び』推進事業』の現在地とこれから」では、第1節で量的なデータの推移を示し、第2節では平成25年度の年次報告会の全体会の様子を文字化して収録、第3節では教科担当の指導主事の先生方にまとめていただいた本年度の教科における研究推進委員の成果と課題のまとめを掲載し、4年間の取組を概観できるようにした。

第4章では、「CoREFの現在地とこれから」として、第1節で私たちが現在の取組の先に目指す一人ひとりの参加者が自分なりの学習科学を育てていく連携の形をビジョンとして示し、そのための具体的な試みとして行っている「授業デザインと振り返りのフォーマット」づくりの意図や成果を第2節で、今年度開催した自治体や連携事業の枠を超えたネットワークによる「学習の科学に基づく授業づくりとその支援についての研究会」の意図と成果を第3節で報告した。

第5章では、私たちの「これから」の具体的なビジョンのひとつとして、学習の「評価」をどう行うかについての私たちが現在の提案を示した。評価の目的と方法についての考えを示した後、小学校、高校での具体的な実践と評価の事例を提示し、こうした評価から見えてくること及びこの評価を日常化していくための今後の課題について述べた。本章の報告は、今年度CoREFと埼玉県教育委員会が文部科学省の委託を受け行った、高等学校における「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」の成果に基づくものである。

第6章は、4年間の研究連携の成果を集めたデータ集である。データは実際にご活用いただける形で付属のDVDに収録されている。「新しい学びプロジェクト」で開発実践した151の教材、「県立高校学力向上基盤形成事業」、「未来を拓く『学び』推進事業」で開発実践した286の教材について、授業案や教材、実践者の振り返りコメント、児童生徒の記述例（一部教材のみ）が収められている。また、実践動画として、これらの教材の一部を用いた授業風景の動画も収録している。あわせて、私たちが研修等で行っているスライドを用いたレクチャーも動画で収録してある（昨年度報告書の再録）。レクチャーの内容は、協調学習の基本的な考え方及びその背景にある「人はいかに学ぶか」についての学習科学の知見、新しい学びを評価する評価についての考え方である。初めてご覧になる方も、既に何度か聞いたという方も、ご都合にあわせてご活用いただけたら幸いである。